

学校体育館に最適なLPガス空調

多くの学校体育館に空調がありません

各自治体にある公立小中学校等の体育館は、学校の授業や行事、地域のイベントだけでなく、災害時には避難所として利用される地域にとって欠かせない施設です。

近年、猛暑による熱中症対策の一環として、学校の普通教室への空調設備整備が進められました。一方、体育館にはほとんど空調が設置されていないのが現状です。

文部科学省が2022年9月に実施した公立小中学校の空調(冷房)設備設置状況調査によると、全国の学校体育館における空調設備設置率は約15%となっています。

また、今年1月に発生した能登半島地震でも、被災地の避難所となった学校体育館の空調整備の遅れが指摘されており、改めて避難所への空調設備設置が喫緊の課題として浮き彫りになりました。

こうした課題解決に向けて、学校体育館への空調設備設置に取り組む自治体も増えており、今後のさらなる普及が期待されます。

停電しても使えるLPガス空調

避難所となる学校体育館には、停電しても使える空調設備が必要です。分散型供給システムで災害に強いエネルギーのLPガスを使った空調は、災害時に電気や都市ガスのインフラが寸断しても使えるので、学校体育館の空調設備として最適です。

LPガス空調は省電力、パワフル&スピーディーな冷暖房が特徴で、学校体育館のような大空間も快適にします。また、LPガス空調には停電しても作動し、空調だけでなく発電ができる機種もあります。発電した電気は照明やテレビ、通信機器などのほか、スマートフォンの充電などにも使えるので、被災者の避難所生活に役立ちます。

災害への備えも地球環境に優しく

LPガスは災害に強いだけでなく、気候変動の主な原因とされる二酸化炭素(CO₂)排出量が比較的少ないクリーンなエネルギーであることも特徴です。



脱炭素社会の実現に向けた取り組みが加速し、各自治体でもより環境負荷の少ないエネルギーの利用が求められています。

こうした中、多くの自治体が「2050年までに二酸化炭素排出実質ゼロ」を目指す「ゼロカーボンシティ」を表明しています。愛知県や大阪府などをはじめ、学校体育館にLPガス空調を採用する自治体も増えており、今後も広がりが期待されています。

LPガス空調は自治体の災害対策、環境対策のニーズに応える設備として選ばれています。



日本LPガス団体協議会

